

2019「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会報告書

- 1 主催 「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会実行委員会
公益財団法人日本科学技術振興財団
- 2 後援 八幡浜市、八幡浜市教育委員会
八幡浜市小中学校長会、八幡浜市PTA連合会
愛媛県教育研究協議会八幡浜支部
愛媛県立八幡浜高等学校、愛媛県立八幡浜工業高等学校
愛媛県立川之石高等学校
四国電力株式会社、清水商事株式会社

文部科学省、全国科学館連携協議会、全国科学博物館協議会、**NHK**
日本物理教育学会、(一社)日本生物教育学会、日本地学教育学会、日本基礎化学教育学会、(一社)日本科学教育学会、(一社)日本理科教育学会、(一社)日本地質学会、(一社)日本生物物理学会、一般社団法人日本物理学会、(公社)応用物理学会、公益社団法人日本化学会、(一社)日本機械学会、(公社)日本アイソトープ協会、(公社)日本理科教育振興協会、(一財)日本私学教育研究所、(公社)日本植物学会、(公社)日本動物学会、(公社)日本天文学会、(公社)日本工学会、(一社)電気学会、日本エネルギー環境教育学会
- 3 協賛 八幡浜市青少年補導員会
- 4 会場 八幡浜市民スポーツセンター 住所：愛媛県八幡浜市北浜1-5-1
- 5 開催日時 令和元年11月16日(土) 9:30～15:30
- 6 来場者数 2,374人
- 7 出展数 31出展
(うちエネルギー(電力)関係出展数 1出展)
- 8 出展タイトル一覧表
 1. 万華鏡を作ろう
 2. 空気でっぼう
 3. 作ろう！プラ板アクセサリー！
 4. 浮く風船で遊ぼう
 5. 空気で遊ぼう ～ペットボトル空気砲～
 6. カラフルスライムを作ろう
 7. バルーンロケットを作ろう！
 8. ゴム動力紙トンボを飛ばそう！
 9. 八幡浜市小学校理科作品展
 10. ゴム動力で飛ぶ飛行機を作ろう
 11. 昆虫に親しもう ～ふわふわ飛ぶグライダーを作ろう～
 12. 星座早見傘を作ろう
 13. カルメ焼きを作ろう
 14. のぼり人形を作ろう
 15. 超低温の世界
 16. 光ファイバーで飾りを作ろう！
 17. 紙コップロケットを作ろう！
 18. ペットボトルの中に「雲」発生！

19. ミカク・ウエヒロのおもしろ実験 ～サイエンスショー～
20. 八幡浜市中学校理科学習発表会
21. 千丈川の生物
22. 落ちないトンボを作ろう！
23. らせん水車を回し、発電しよう！
24. エコ発電
25. ロボットアメリカンフットボール
26. カラフルしおりを作ろう ～ペーパークロマトグラフィー挑戦～
27. ペットボトルで糸巻き戦車を作ってみよう！
28. 双眼鏡で遊ぼう！
29. 磁石の力でストローロケットを飛ばそう！
30. 木の葉の化石を掘り出そう
31. あたたまり方が見える不思議な実験

- 9 製作物
- 実験解説集：B 5 版／表紙：水色と黄・中：白色
(表紙 10 色・中 1 色)／ページ数：38／部数：1000 冊
 - ポスター：B 2 版／10 色／製作部数：200 枚
 - チラシ：A 4 版／表紙 10 色(ポスターと同じ)
裏 8 色／製作部数：5,000 枚
 - アンケート：A 5 版／桃色印刷／製作部数：1,000 枚

- 10 広報活動
- 製作物(ポスター・チラシ)は、教育委員会やPTAの協力のもと、小中学校・高等学校・保育所(幼稚園)・市役所等の公共施設を中心に配布した。
- 近隣の小中学校には、児童生徒全員分、遠方は学級数分チラシを配布した。報道機関等には、事前に実験解説集及びチラシを各1部ずつ配布した。
- また、八幡浜庁舎、保内庁舎、伊方庁舎、三崎支所、及び商店街に懸垂幕・横断幕を設置し、広く市民に呼びかける活動を行った。
- 広報やわたはま 10月号
 - ・ 日時、場所、概要等を掲載し、参加を呼びかけた。
 - 広報やわたはま 11月号
 - ・ 日時、場所、概要等を掲載し、参加を呼びかけた。

11 その他

一日中、好天に恵まれ、終了時刻を迎えるまで来場者が絶えることがなく盛況であった。2,374名の参加者があり、「不思議な科学ショーで感動の体験をしてみませんか？」のキャッチフレーズのもと、八幡浜市内の小中学校・高等学校の先生方、一般の方々が中心となって、科学の祭典が実施された。

この祭典は、子どもたちに発見と創造の喜びを体感させ、少しでも理科嫌い・理科離れ現象をなくしていくことがねらいの一つとなっている。今年は、全部で31のブースが出展された。「空気でっぼう」「浮く風船で遊ぼう」「星座早見傘を作ろう」「光ファイバーで飾りを作ろう！」「ペットボトルの中に「雲」発生！」「磁石の力でストローロケットを飛ばそう！」など、各ブースにおいて子どもたちの驚きや感動の声が会場にあふれていた。また、各ブースでは、中・高校生が実験の説明や製作の手伝いを行い、好評であった。

ステージショーでは、今年も「ウエヒロ・ミカクのおもしろ実験」が披露され、「誰かに話したり、家でやりたくなる実験」のテーマのもと、多くの実験を演示したり、参観者が体験したりして、子どもたちを魅了した。市内の小中学生による理科作品の展示や発表も興味深いものであった。

事後のアンケートでも、「今まで見たことのないことをしたので、びっくりした。」「科学の楽しさが分かった。」「来年もぜひ参加したい。」などの声が多く寄せられた。子どもたちが、自分の目で見て、触れて、体験することで、科学のおもしろさや不思議さを十分味わうことができ、有意義な一日になったと思う。特に、子どもたちの表情やしぐさに満足感や充実感を感じ取ることができ、大きな収穫となった。